

## アジア研究教育ユニット 令和5年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	非常勤講師任用
<b>代表者名</b>	伊藤正子
<b>事業概要 (600字程度)</b>	<p>東南アジア諸国はそれぞれ独自の国家語を有し、多くの国では日常生活のみならず大学においてもそうした国家語が使われている。そのため学生が東南アジアへの理解を深め、また有意義な学術交流を行う上では、東南アジアの言語の習得が不可欠である。本事業では、ベトナム語を対象にこの能力を向上させ、現地大学とのより有意義な人材交流に資することをめざす。特に、基本的な文章読解能力と初級会話能力の涵養に重点を置き、受講者の習熟度に応じて柔軟に対応する。「ベトナム語 II(初級)」として、ベトナム語教授の経験豊富な吉本康子氏が担当し、講義は、後期分の実施とする。</p>
<b>成果の概要 (800字程度)</b>	<p>本年度の受講生は5名（工学研究科1名、文学部4名）で、全員が前期から継続しての受講であった。受講動機としては、ベトナム語という言語に関心を持ち（対照言語学的な観点から）その特徴について知りたい、多民族国家や民族状況について関心があり近い将来ベトナムを訪問したい、旅行等で既にベトナムを訪問したことがありベトナム語が話せるようになりたい、などをそれぞれ受講の動機として挙げた。5名のうち出席日数不足の1名を除く4名の単位を認定した。例年と同様、いずれの受講生も発音の難解さには困惑気味であったが、基本的な文型を使った文章の理解、挨拶表現や自己紹介の表現の習得など初級の学習の目標を達成することができた。受講生のうち1名は学内の短期派遣プログラムに申請したものの渡航は実現しなかったとのことであった。</p>